

第5回磯子区地域福祉保健計画策定委員会 議事録

平成17年10月5日

磯子区役所 702 会議室

◆議題

1. 報告事項
 - ・ 第3回アクションプラン検討会報告
 - ・ 社会福祉協議会部会検討結果報告
2. 計画素案について
3. 計画の推進評価体制・推進スケジュールについて
4. 計画素案への意見募集・愛称募集について

◆意見交換の記録

1.防災防犯について

- ・ あまり出ていないが（地区別には出ている）、福祉とは別のものか。
- ・ 防災計画そのものではないか。
- ・ 日頃のつながりが防災防犯の「根」であり、「あいさつ」や有事における「要援護者」に計画で及んでいる。
- ・ 地区では取り組むことになっていて、全体では情報等で取り組むとなっているが、もっと打ち出せないか。
- ・ 防災防犯と福祉は別のものではない。独居高齢者の問題なども盛り込んでほしい。→検討する。

2.推進体制について（18P）

- ・ 団体の内容に連合町内会を入れてほしい。任意団体だが、地域社会を支えている。単位は町内会、自治会。
- ・ 新しい組織をつくるよりも、今あるものを活用した方がよい。情報伝達機能（確実な）。→役割分担に個々の団体まで詳細にのせていない。それぞれの団体が提案し、決めていく。
- ・ 自治会だけではできないこともある。今回の計画では、市民が直接参画できるのも特徴。

3.アクションプランの表現について

- ・ アクションプランは箇条書きにした方がわかりやすい。
- ・ 読む人の目線、読みやすい表現に。
例：場づくりプロジェクト「地域デビュー」→「集える場所を…」
- ・ 市民がどう入っていけるか、何をするのか、「地域の役に立つためには」をわかりやすく表現する。簡素でわかりやすい表現。
- ・ 「区役所はここまですます」ということを明記すべきでは。行政は何をするのかを明記す

る。行政はサポートに徹することになったのか。

- ・区社協はここまで、区はここまで、というように明記する。
- ・アクションプランについての合意がまだできていない。
- ・区民が「これならできる」と思える形で示したい。

4.地域への予算化について

- ・福祉は予算がないのか。市福祉局から取れないか。

→地域福祉はすべて予算でやるものではない。

- ・防災訓練のあと、飲食がなければ次に誰も来ないのが現実。
- ・新たな財源をつくるだけでなく、お金は使い方である。自分たちで、町内会の予算総額から福祉に回せばよい。
- ・できる町内会とできない町内会がある。小さいところは、3～4つの町内会でかたまつてやればよい。
- ・市民がこうしたいと思って作ってきている。自分たちが出資しても必要なことをやるという想いを引っ張り出す。
- ・行政依存だけでなく、区としても地域の中で協働でできるものに。
- ・スターター予算を取るために準備中。限られた予算をどう使うかも大事。

5.協働事業提案制度について

- ・計画の公表とは、地域福祉計画を公表し、投げかけることを意味しているのか。
- ・委員会というのは推進委員会のことか。(→そうだ)
- ・誰が提案を受け止める窓口になるのか。(どこに、誰に)
- ・提案を受け止める窓口は区か社協か、どこに行けばいいのかわかるように書かないといけない。

6.素案のボリュームと構成について

- ・ボリュームはどのくらいにするか。(→20ページ)
- ・素案の流れ、体系(8月の検討会に提出したもの)が見えない。
- ・課題の位置がこれでいいのか。基本的考え方の次に課題では。

→計画の理念、目標を設定したあとで、「一方」、課題は何かを記述し、方針を書き込んでいる。

7.全体の書き方のトーンについて

- ・区民の意識はもっと低い。
- ・かたい枠に入るものではなく、都合のいい時にできそうなイメージの、声が出るやわらかいものにできないか。文章にするとかたくなる。

- ・市民が見る、読む側に立って、しあわせバンクにスキルを登録したくなるような書き方を。「スキルを登録するには」など。

8.地区別計画について

- ・地区別にボリュームを取りすぎ。全体をもっとわかりやすく。
- ・前半は役所ことばだが、地区別のところで、わかりやすくしてホッとさせる。
- ・地区別は身近で、自分にもできそう（貴重である）。一方で、自分の地区だけ見る人もいる。
- ・前段をもっと見やすく、文字ポイントを上げるべき。
- ・地区別には地図、地区課題、実施方法まで入れないといけない。
- ・参加者も納得し、参加していない人にも伝わるように表現すべき。
- ・地区合意は大丈夫か。地区ごとに違うので、どこまで公表できるか。

→検討会において、合意確認を得てきている。一緒にやろうということになっている。

- ・何をしたらいいかわかるようにしたい。
- ・やりたいことができる。道筋が見える。関わり方がイメージできることが大事。

9.広報区版への掲載について

- ・概要版は、11月号として、タブロイド版で発行することになっている。
- ・素案の骨組みを示し、意見募集と計画の愛称募集を盛り込んでいる。

10.素案配布、意見募集の方法について

- ・公共施設のラックに置かれるだけで、素案は区民に配布されない。
- ・ラックと広報を見て、興味のある人だけが持っていく。
- ・文面は「わかる人」が対象か。
- ・素案の印刷部数は5,000部を予定。
- ・意見をどう集めるか。
- ・意見はホームページの書き込みか。
- ・会合などで、積極的に配るべきではないか。
- ・構成は共有（理念、目標）、実態、課題（どうする、方針、アクション）。
- ・配布は今までと同じで、勤めに出ている人や学生は手に取れない。
- ・駅はどうか。学校との連携。学校にも置いてもらう。
- ・コンビニなど、皆が知っているところに置いてもらう。
- ・協力してくれるところにはどこでも置いてもらう。
- ・広報には限られた場所しか書けない。
- ・町内会配布は無駄がない。
- ・有志で意見交換し、その後郵送する。